

利用促進
利便性向上

指定場所・施設を大幅に見直し！

令和7年7月1日から乗降車できる指定場所・施設を変更しました。変更後は次のとおりです。



- ①最上病院 ②高齢者総合福祉センター
- ③最上駅 ④交流広場 ⑤最上町役場
- ⑥小川歯科医院 ⑦JA最上支店 ⑧永井医院
- ⑨マックスバリュ ⑩予約センター ⑪柴崎喜久光商店
- ⑫おかの薬局 ⑬紅梅荘 ⑭最上郵便局
- ⑮セブンイレブン最上向町店
- ⑯コメリハード&グリーン最上店
- ⑰ツルハドラッグ最上店 ⑱薬王堂

【東エリア「赤倉堺田方面」に登録している方のみ】

- ⑲赤倉ゆけむり館 ⑳富澤地区公民館

【前森黒沢エリアに登録の方のみ】

- ㉑前森高原

【西エリアに登録している方のみ】

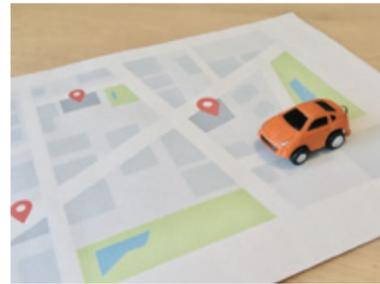
- ㉒大堀地区公民館 ㉓道の駅もがみ ㉔せみの湯

経費削減
運行効率化

エリアやダイヤの再編により、経費を削減

予約制乗合バスは、現在3台体制で運行をしておりますが、エリアや時間帯によって利用状況に差があり、予約が無く、まったく運行しない休日も生じております。

そのような現状を踏まえて、より効率的なエリアの分け方やダイヤの調整を行い、利便性を損なうことが無いようにしながら、3台体制から2台体制での運行に向けた検討を進めます。



参考：新潟県村上市 NPO法人おたすけさんぼく

現在の町の地域交通は、JRが運行する鉄道が代行バスとなっており、タクシー事業者の不在など、住民の皆様はこれからの移動方法に不安を感じているかと思えます。町が運行する予約制乗合バスのみでは、生活に必要な地域交通の全てを補うことは困難であることから、町内の関係団体や住民の皆様と共に作り上げる、公共ライドシェアの制度構築に向けた検討を進めます。

公共ライドシェアとは、バス・タクシー事業者が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に、市町村やNPO法人等が家用車を用いて提供する運送サービスのことです。

近隣自治体などの事例を研究した上で、本年12月頃に実証実験を行い、令和8年度からの本格導入に向けて取組を加速させます。

公共ライドシェアの導入

令和7年6月24日に、最上町地域公共交通会議を開催し、地域の関係者が今後の交通について話し合いました。

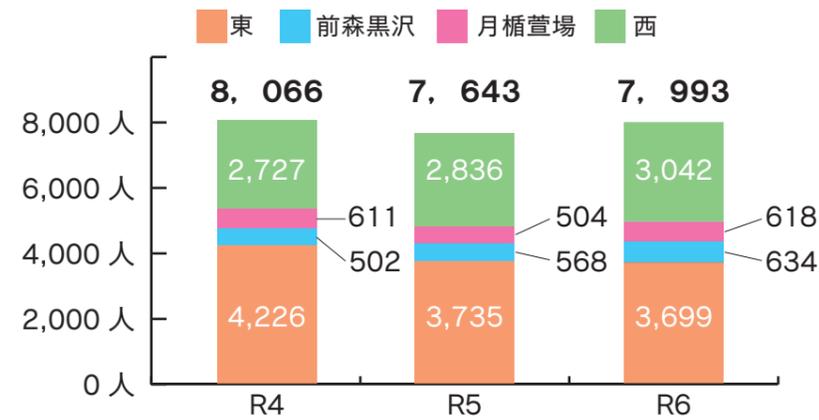
町では、町民の方々の日常生活に必要な移動手段として予約制乗合バス（愛称：レインボー号）を運行しております。今回は、最上病院への通院や買い物などの日常の移動を支える予約制乗合バスの現状や、今後の取組についてご紹介します。

地域交通
の取組み

～予約制乗合バスの現状やこれからの取組み～



【年度別路線ごとの利用者数の推移】



予約制乗合バスは、町内全域を4つのエリアに分け、平日は毎日、3台体制で運行しています。年度ごとの利用者数や路線別の傾向については、左のグラフをご覧ください。年間の総利用者数は約8,000人にのぼりますが、エリアによって利用状況に差があり、特に前森黒沢エリア及び月楯萱場エリアは利用者が少ない傾向が見られます。

年間利用者は、ほぼ横ばいであり、今後も大きな変動はないものと予想しています。

予約制乗合バスの現状

【令和4年度から6年度までの収支状況】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用収入	1,544,700円	1,434,900円	1,478,200円
国・県補助金	5,087,000円	4,769,000円	5,110,000円
町負担	21,270,810円	16,470,131円	16,331,834円
年間事業費	27,902,510円	22,674,031円	22,920,034円

(車両購入費含む)

予約制乗合バスの年間事業費は、運行業務委託、予約センターの運営委託、燃料費、修繕費など全てを含めると約2,200万円の経費がかかっています。

収入に関しては、利用者からの利用料は約150万円にとどまっており、事業は主に国・県の補助金と町の負担で支えられています。

今後も持続可能な運行を続けていくため、「利用促進」と「経費の見直し」に取り組んでまいります。

収支状況と今後の課題